広島夕学講座

さまざまな平和、ヒロシマの平和

戦後70年の中、世界で、アジアで、ヒロシマは平和のシンボルとして認識されてきました。さまざまな紛争を抱えるさまざまな地域のさまざまな人々から向けられるさまざまな平和への思いに、広島はどう応えられるのか、広島大学が試みてきた「さまざまな平和」への取り組みを通じて考えます。

講師紹介

広島大学
大学院社会科学研究科
教 授 吉田 修

京都大学法学部卒。名古屋大学法学研究科博士後期課程中退、ジャワハルラル・ネルー大学国際学部中退。名大助手、本学法学部助教授を経て01年教授。専門は南アジアの政治や国際関係。

研究テーマ

発展途上国＝弱者（助けてあげるべき存在）というステレオタイプがいかに生み出されたのかをインドやアメリカ、世界銀行などの資料から探っています。開発援助は昔からあるような錯覚に陥りますが、たかだか50年の歴史。草創期の先進国による試行錯誤の過程を検証し、開発援助のグローバルな政治経済的意味を明らかにしたいと思います。援助とは「助けてあげる」のではなく、経済関係を再構築すること。史上初めて組織的な開発援助が行われたインドに、その原点があると考えています。

- 日　時　平成27年5月15日（金）18時30分～20時30分
- 会　場　広島商工会議所（広島市中区基町5-44）
- 受講料　3,090円（一般，税込）
- 申　込　広島商工会議所へお電話ください。☎082−222−6631

広島商工会議所　広島大学